

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう} 放送原稿（10月31日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。

今朝は、奄美図書館の新着図書について御案内します。

まずは、一般書の御案内です。

1冊めは、自身も吃音者^{きつおん}であるキャサリン・プレストンさんの『吃音を生きる』です。国を問わず、吃音のある人は約100人に1人の割合で存在すると言われています。この本は、イギリス人女性による自叙伝です。アメリカに渡って吃音と共に生きることを受け入れる20代後半までの過程が、生き生きと描かれています。また、数多くの吃音当事者とその家族、専門家へのインタビューをはじめ、アメリカにおける吃音研究の現況、治療法の歴史、映画『英国王のスピーチ』評などの記述が組み込まれており、吃音の問題を主観と客観の両面から多角的に見つめた作品となっています。

2冊めは、加藤晴康さん^{かとうはるやす}監修の『幼児・小学生のための身長をグングン伸ばすための本』です。親としては、我が子の身長の伸びは気になるものです。特に、小さめだと、遺伝だからとか、牛乳をたくさん飲んだ方がいいとか身長に関しての様々な俗説が気になってしまいます。この本は、医師や栄養士などの各方面の専門家による科学的知識を基に作られています。成長期の子どもの伸びる力を最大限に引き出すためにはどうしたらいいかについて、具体的に日常生活での疑問に答える形式で紹介してあります。しかし、個人差があるので、必ずしも望み通りにはなりません。それも個性ですので、背を伸ばすためでなく、心身ともに健やかに成長するための参考にされてみてください。

次は、児童書をご案内しましょう。

1冊めは、第24回^{むくはとしゅう}椋鳩十児童文学賞受賞作品で^{ありさわ か え}有沢佳映さんの『かさねちゃんにきいてみな』です。家庭環境も、性格も違う小学1年生から6年生までの8人が、毎朝一緒に騒がしく登校する様子が面白おかしく書かれています。自分とは全然違う他人との関わり合いの中でそれぞれ着実に成長している様子が分かり、優しくありたい、賢い大人になりたい、と前向きな気持ちになれる作品です。

2冊めは、『パパはウルトラセブン』や『おまえうまそうだな』で有名な^{みやにしたつ や}宮西達也さん

の『ニンジャさるとびすすけ』です。このお話は、忍者のおかしら「さるとびすすけ」の子ども「さるとびすすけ」が、たくさんの子分達やお殿様に見守られ、成長していく様子が描かれています。「ちちとははのおしえのまき」では、「すごい忍者になりたい」とすすけが言うと、かあちゃんは、「それならいっぱい勉強しなさい」、とうちゃんは、「それならいっぱい遊べばいい」と言います。どっちがいいのか悩んでいたら、子分達がいろいろ意見を出します。最後にお殿様に聞きに行くと、「いっぱい勉強していっぱい遊ぶことだ。」と言われます。他にも「いじめをなくすじゅつのまき」や「しんだあとは？のまき」があり、生きていく上での大切なことが書かれてあり、面白さの中にも考えさせられる絵本となっています。ぜひ、親子で読んでみてください。

最後は郷土に関する本のご案内です。

ながつかひで お
長塚英雄さん責任編集の『日露異色の群像30』です。日本とロシア文化の相互理解に
尽くした人々が紹介されています。その中で、早稲田大学文学学術院教授の ^{みなもとたかし} 源 貴志さん
が異色のロシア文学者として、奄美出身の ^{のぼりしよむ} 昇 曙夢を紹介しています。昇 曙夢は、ロシア
文学者ですが、^{だい}『大奄美史』の著者であり、奄美群島の日本復帰運動に重要な役割を果た
した人物です。異色というのは、まず、南国・奄美の出身ということ、それから、仕事の
対象が偏りなくロシア文化の全域にわたっているということ、単にロシア文学の専門家と
してではなく、日本文学の作家としても認められていたことです。

本の中で紹介されている昇曙夢の関連図書も所蔵しておりますので、どうぞ、併せてご
覧ください。

お知らせです。11月下旬の特別整理期間前の11月5日から24日までは、一般・児
童書ともに一人それぞれ10冊まで借りることができます。ぜひ、この機会にたくさん
ご利用をお待ちしています。

どうぞ、秋の夜長をゆっくり読書でお楽しみください。

それではまた来週、鹿児島県立奄美図書館でした。